福島県立須賀川養護学校　地域支援センター

きらり通信

平成２６年２月２７日（木）発行　　第１６号
福島県立須賀川養護学校
tel：０２４８－７６－２５１１　fax：０２４８－７２－４７２９
ホームページ　http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp

どの子にもわかりやすい授業を

地域支援センター主任　星 ひろ子

春の訪れが待ち遠しい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。昨年度、新たな試みとして「須賀川養護学校授業公開及び懇談会」を行いました。子どもたちの特性に配慮したかかわりや授業づくりについて、地域の中学校や高校の先生方と一緒に考えることができました。とても好評でしたので、今年度は**「授業のユニバーサルデザイン～特性に配慮した指導・支援の工夫～」**をテーマに、２回の実施となりました。

８月の「実践講座及び懇談会」では、特性把握の視点や本校で行っている特性に配慮した指導・支援について紹介した後、授業づくりについて語り合いました。１月の「授業公開及び懇談会」では中学部と高等部合わせて５つの授業を公開し、授業の中での具体的な配慮や支援について話し合いました。授業者から出された配慮や支援のポイントをいくつかご紹介します。

◎授業の見通しを持って安心して取り組めるようにするため、本時のねらいや学習内容を明示する。
◎指示や発問を具体的に分かりやすくする。必要に応じて視覚からの情報を添える。
◎同時に２つ以上の活動をするのが難しい場合には、学習活動を区切り、その都度明確に指示する。時間を十分に確保し、必要に応じて書く内容や場所を指示したり、ワークシートを準備したりする。

懇談会では、「会話でのやりとりには問題がないが、読み書きに困難を抱える生徒への支援の仕方」「学習活動を区切ることの効果と、社会生活に対応できるようにしていくための工夫」等について意見交換がされました。

地域支援センターきらりは、これからも特性の把握の仕方や特性に配慮した授業づくりを提案していきます。また、保護者や先生方、関係機関の方々からの相談、情報提供、研修への協力等も行っていますのでご活用ください。

▲懇談会の様子

自己理解とライフプランニング

～「児童生徒の心のケアに関する研修会」から～

本校では昨年度から計４回、浜松医科大学子どものこころの発達研究センターの**辻井正次先生**から**「児童生徒のストレスを軽減するための授業プログラム」**を学んできました。第４回の研修会で取り上げていただいた「高次の自己理解」に関するお話の中から、**自己理解とライフプランニング**についてご紹介します。

自己理解のスタートは、**得意なことを理解**することです。できることがわかっていると、日常生活を肯定的にとらえやすくなります。次に、**苦手なことを理解**します。苦手なのは、うまくいく方法がわからないだけ。苦手を理解することは、うまくいく方法を見つけるためにとても大切です。行動の仕方のコツがわかれば、苦手なことにも対応できるようになります。

そして、**いつまでにどんなコツを身に付ければいいか**を考えていくことが、ライフプランニングにつながっていきます。お子さんや家族の年齢も書き込んだ表を作ると見やすくなります。自己理解とセットでライフプランニングを考え、好きなことや得意なことを生かしながら生活していけるといいですね。　　（文責　星）

ＩＣＴ交流で世界が広がる！

最近のデジタル機器・通信機器の進歩はめざましく、上手に使いこなすことができればとても有効な学習手段となります。遠く離れた場所にいても、テレビ会議システムを使うことによって互いの顔を見ながら交流することができ、生徒たちの活動の幅を広げることに大きく役に立っています。

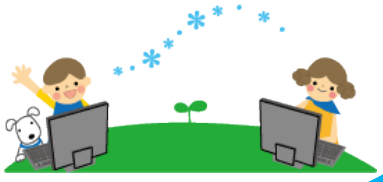
本校高等部では、校舎内学級が福井東特別支援学校と西多賀支援学校、わかくさ学級が秋田県ゆり養護学校・宮城県山元支援学校とＩＣＴ交流を行っています。今年度は、カメラを通してお互いの自己紹介や、学校行事の紹介・自分たちで調べたことの発表などを行いました。

福井東特別支援学校との交流の際には、本校の生徒たちは原発の状況やスポーツ大会等の行事をテーマに選び、協力して準備をしていました。絵を描いたり写真や実物を用意したりするなど、**より分かりやすく伝えるために工夫しながら取り組む姿**が見られました。また、相手校では「普段はなかなか恥ずかしがって発表できない生徒も、カメラの前では大きな声で発表できた」という嬉しい驚きもあったようです。両校の生徒にとって、普段の学校生活に刺激を与えるとてもよい交流となりました。

▲交流会の様子

わかくさ学級では同年代で交流を図り、カラオケでのデュエットを楽しむ姿が見られました。また、相手に分かりやすいようにと、**ゆっくりはっきり話そうとする姿**があり、カメラを意識している様子も見られました。

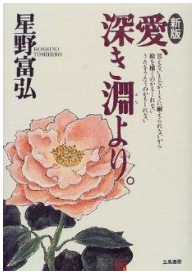
今後も計画的にＩＣＴを活用した交流を行い、**コミュニケーションを楽しみながら視野を広げる**機会にしていきたいと思います。　（文責　宗像）



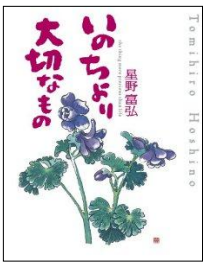
本の紹介

今回は、画家であり詩人でもある**星野富弘氏**の本を紹介します。

クラブ活動指導中の事故により、２４歳で首から下の自由を失った作者。**『愛、深き淵より。』**には、その事故から９年にも及ぶ入院生活が綴られています。天井を見つめながら死を思った日、いらだちを母親にぶつけた時。そして、ペンをくわえて「全身の力を首に集中」し、「ゴマ粒ほどの黒い点」を書いた瞬間も。それは、表現することの喜びを知った作者が「深き淵」から力強く歩み始めた瞬間でもありました。



次に紹介するのは、詩画集**『いのちより大切なもの』**です。震災後、無力感から何も描けなくなった作者。そんな時目に映ったのは、瓦礫の中の倒れそうな木に咲く花と、その花の周りに集まる人々の姿でした。作者は花に希望を見いだして、再び描き始めます。れんぎょうの絵には、「わたしは傷を持っている/でもその傷のところから/あなたのやさしさがしみてくる」という詩が添えられています。



「花には、一つとして余分なものがなく、足らないものもないような気がした。」―ありのままの姿でいいのだと思わせてくれる本たちです。　（文責　大場）